

中国における回族ムスリムの重層意識と イスラーム教の空間構築に関する考察

——中国ムスリムと清真寺調査を中心に—— (1)

Multiple Consciousness and Space Construction of Hoi Muslim in China
—Through Researches of Chinese Muslim and Mosques— (1)

高明潔

GAO Ming Jie

樋口義治

HIGUCHI Yoshiharu

愛知大学現代中国学部

Faculty of Modern Chinese studies, Aichi University

E-mail: garouna@aichi-u.ac.jp

愛知大学文学部

Faculty of Literature, Aichi University

E-mail: yhiguchi@vega.aichi-u.ac.jp

Abstract

This paper presents the multiplicity of Hoi society in Ningxia, Xinjiang, and Beijing of China through the visits of those religious facilities, the symposium, and the home visits and the interview. The purpose was to view the symbol and its common features of Islamic cultural system maintained in Hoi society until now through the following two points.

- i) The features and the multiplicity between the chinese social self-identity and the religious Islamic-identity of Hoi people who have two different positions in China society.
- ii) The relationship between the culture and society of Hoi and Islam through the structure and the function of the mosque.

はじめに

1. 本論文の目的

本論文は、平成15、16年度文部科学省科学研究費補助金『基盤研究(c)「イスラームにおける中国——現代イスラームの秩序認識とその中国理解の複合的構造研究——」(代表者：鈴木規夫・分担者樋口義治・高明潔)』によって行われた調査研究(具体的な調査活動

は注1の表を参照)の成果に基づいて再編集したものである^(注1)。

本論文の主な研究対象は中国ムスリムの代表的存在である回族社会である。本論文は特に、I:社会的・宗教的に異なる身分に分けられている回族出身者の自己認識から見る回族のイスラーム・アイデンティティの特徴について;II:モスクの機能から見る回族社会・文化とイスラーム教との関連について、という二つの側面を通して、回族社会に維持されているイスラーム的文化体系の表象とその特徴の共通点を検証することを目的とする。

回族は中国の55の少数民族集団の一つである。人口は900万あまりで、全国各地に広く分散している。本論文は、中央アジアに位置している新疆ウイグル自治区(回族人口75万あまりで、新疆の総人口の約4.5%を占める)における回族社会;中国の西北地域に位置している回族の本拠地である寧夏回族自治区(回族人口200万あまりで、寧夏総人口の約34%を占める)の回族社会、中国の政治・経済の中心地である北京(元・明時代から中国のムスリムの中心の一つ)の回族社会を対象として、それぞれの地域において、イスラーム教施設の見学と座談会、家庭訪問・インタビューというような現地で得た第一次資料をもとにして、さらに現地で蒐集していた文献資料を参照した上でまとめたものである。こうした広範囲での調査を通して、回族社会全体が持つイスラーム的文化体系の表象とその特徴の共通点を抽出することが可能となったと考える。

2. 本論文の用語表記について

ここでは、まず本論文に使用されている回族のイスラーム教の宗教用語、およびその宗教生活を示す固有用語や事項を【表1】にまとめる。これに基づいて、本論文では宗教関連、例えば、宗派や宗教組織を示す用語はカタカナ、その他の固有用語、例えば、風俗習慣や年中行事を示す用語は中国語漢字によって表記する。以降の本文においては、どちらの表記においても、改めてその用語の意味合い、アルファベット、漢字などは加えないことにする。

【表1:回族の宗教用語・固有用語】

回族用語とその固有漢字表記	日本語の意味・カタカナ表記
格底目・格底木	カディーム～Qadim 老教とも言う。中国イスラームにおける正統であると認識される。「門宦」は設けない。新疆の回族に「大坊」と呼ばれる。
伊和瓦尼	イクワーニ派 Ikhwan 「新教」と呼ぶ。門宦制度に挑戦する宗派。
苏菲	スーフイズム～al-sufismu を指す。
四大門宦	スーフイズム～al-sufismu の四宗派を指す。新疆の回族に「小坊」と呼ばれる。17世紀中頃中国に伝来。内部は四つの門宦に分かれる。門宦はスーフイズムの中国語の呼び方で、主にその下位教団を指す。

嘎迪林耶	カディリーヤ～Qadiriyyah スーフィー派四大門宦の一つ。仏教と道教の影響を受け、教団は甘粛・寧夏・青海・雲南・新疆に分布する。
哲合忍耶	ジャフィリーヤ～Jahryyah スーフィー派四大門宦の一つ、「公開的・高い声で唄う」の意味。「新教」や「高声派」とも言う。教団は甘粛・寧夏・青海・雲南・新疆に分布する。
虎夫耶	フフィーヤ～Khufiyah スーフィー派四大門宦の一つ、「隠密的・低い声で唄う」の意味。「老教」や「低声派」とも言う。ウイグル族の教団が多い。教団は甘粛の隣夏、蘭州、寧夏に分布する。
庫不林耶	コブリーヤ～Kubriya 「大者に到る」の意味。スーフィー派四大門宦の一つ。甘粛省の東郷族地域に分布する。
清真寺	イスラームの礼拝所を指す。モスクとも言うが、アラビア語のMasjidからの呼び方。中国では「清真教」でイスラーム教を指す。
道堂	スーフィー派回族ムスリムの修業場を指す。「静室」や「静房」とも呼ぶ。「ハニカ」や「ジャヴヤ」とも言う。
可蘭経・古蘭経	クルアーン；コーラン。
榔克・邦克	ペルシア語 Bang～バング。大きな声、長く伸ばす声。礼拝呼びかけ。
拱北	ゴンバイ～Qqubba (墓所：クッバ)
阿訇	アホン・アーホンド～Akhwund 宗教指導者・教長。
满拉	マウラー, ムッラー～Mawla, mulla 宗教学生。
「大浄」・「小浄」	アラビア語 Taharah～清潔さの意識で、中国語の当て字は「塔哈拉」である。「小浄」は礼拝する前にきれいな水で手や顔や足元を洗うことと口をうがいすること。「大浄」は「烏斯里」(アラビア語 Ghusl)とも言う。礼拝をする前の沐浴を指す。回族ムスリムの義務の一つ。
水房	清真寺に設けている「小浄」や「大浄」を行う沐浴室。小浄室は共同で利用することが可能で、日本の銭湯の共同施設に似る。大浄室は個室で、シャワー式で設けていて、共同利用は禁止される。
主麻	ジュムア～Jumah イスラーム暦の礼拝日、西暦金曜日の集合礼。
朝覲 哈吉	Khwajaの意識、メッカ巡礼を指す。音訳は「哈吉」。イスラーム教暦12月8-12日の間に行う。 ハッジ・ホージャ～Khwaja メッカ巡礼経験者を指す。先生、師、貴人を指すが、回族ムスリムの場合は宗教指導者をも指す
尔麦里・尔埋里	アマール Amal 行い、主として祖先追悼のお勤め
乜帖・乜贴	Niya, Niyatの意識。捧げる意図、気持。 回族ムスリムでは上層部の貧困層信者への寄付や信者の清真寺への寄付。
巡礼	Umrah～ウマッル；ハッジ以外の期間中のメッカ巡礼を指す。「小朝」「副朝」ともいう。
教主・穆勒什德	ムルシド～al-murshid 宗教指導者を指す。主にジャフフリーヤ派が用いる。
伊麻目・伊馬木	イマーム～imam 宗教指導者・教長を指す。
帰真	アラビア語 Maut～マイトの意識。原意は「死亡」、音訳は「冒台」；「無常」とも言う。
教坊	もっぱら一つの清真寺を祭る教区を指す。「寺坊」とも言う。規模それぞれ。教坊には「郷老会議」を設けたが、現在「寺管理委員会」に変更。教坊間の相互干渉はない。

古鹽邦節・宰牲節	アラビア語 <i>Iid Al-adha</i> の意識。イスラーム教暦12月10日、メッカ巡礼の最終日に開催する大規模行事。
肉孜節・開齋節	ペルシア語 <i>Rozah</i> の音訳、新疆回族が持つ用語。西北部回族は「開齋節」と言う。アラビア語 <i>Id Al-Fitr</i> の意識で。イスラーム教暦10月1日。9月の齋月の断食を終えた後の盛大な行事。
進教・帰正儀	回族の非ムスリムがムスリムに加入する「加入礼」を指す用語。帰正儀は明代からの用語で、現在では進教を言う。

〔調査記録をもとに、『イスラーム世界事典』『殉教の中国イスラーム』『伊斯蘭教辞典』『宗教大辞典』『回族穆斯林常用語手冊』などを参考にした上作成〕

3. 本論文の構成について

本論文の全体構成は以下の通りである。紙面の制限で、二回分載する形で公表することになっている。この号は、下記の二の6節までを掲載している。

はじめに

一、回族におけるムスリム・アイデンティティの重層性の表象

——インタビューを中心に——

二、回族清真寺・拱北からみる中国におけるイスラーム教の空間構築

1. 寧夏「納家戸清真大寺」——スーフィズム・フフィーヤ派——
2. 寧夏「吳忠清真寺」——スーフィズム・フフィーヤ派——
3. 寧夏「同心清真大寺」——カディーム派——
4. 寧夏「洪崗子拱北・清真寺」——スーフィズム・フフィーヤ派洪門宦——
5. 寧夏「吳忠板橋道堂・拱北」——スーフィズム・ジャフリーヤ派板橋門宦——
6. 寧夏「洪樂府道堂・拱北」——スーフィズム・ジャフリーヤ派沙溝門宦——
7. 寧夏「韭菜坪清真寺・拱北」——スーフィズム・カーディリーヤ派——
8. 寧夏「沙溝道堂・拱北」——スーフィズム・ジャフリーヤ派沙溝門宦——
9. 北京市朝陽区「下坡清真寺」——カディーム派——
10. 北京市朝陽区「営営清真寺」——カディーム派——
11. 新疆ウイグル自治区吐魯番市「東大寺」——カディーム派——

考察

1. 回族出身者のムスリムアイデンティティにおける重層性
2. 清真寺にみる中国イスラーム教の空間構築
3. 清真寺にみる中国イスラーム教諸派の歴史とその政治的運命
4. 清真寺にみる宗教的・社会的機能について

結語

一. 回族におけるムスリム・アイデンティティの重層性の表象 ——インタビューを中心に——

下記の内容は、筆者二人が現地において回答者との間に質問と回答という形で行ったインタビューの記録である。質問は二人の質問内容をまとめた形をとっている。また、回答者が自ら話題を提供し語りを進めることもあった。インタビューの内容は当時取っていた録音とメモおよび各自の調査日誌によってまとめたものである。

また、インタビューの対象は下記に取り上げている方々のみならず、より多くの回族出身者に対しても直接話しあうことができたが、紙面の制限で、ここでは代表的な内容を示す。

インタビュー〔1〕

時間：2004年6月

場所：新疆ウルムチ

話者：Mさん（女・回族・幹部・50代）

問：新疆の回族の人口はどのくらいですか？

答：80万あまりがいて、すべてがイスラーム教を信仰している。新疆の回族のほとんどは内陸西北の出身である。中には、18世紀ごろ清朝政府に鎮圧された回民起義のなかで流罪された者の後裔もいれば、清末の頃に商売のためにやってきた人々の後裔もいる。長い歳月を経ているので、新疆の回族は内陸西北の回族と似ているところもあれば、似てないところもある。

問：どこが同じで、どこが違うのか？

答：新疆の回族は、その内部において「門宦」に分かれている。その門宦は西北地域から伝わって来たもので、この点は似ている。ただし、言語や服装などの日常的風俗では西北地域の回族とはやや異なり、地元のウイグル族などの人々に似ている。

問：そのような異なる点の具体的な例は？

答：例えば、イリ地域の回族はカザフ語を話せる。和田地区の回族はウイグル語を話せる。和田地区はウイグル族の集中地区で、98%以上はウイグル族なので、回族の児童は皆ウイグル族の民族学校に通っているから、皆ウイグル語を話せる。また、ハミ地区の回族も皆ウイグル語を話せる。

また、新疆回族の清真寺は西北地域回族の清真寺と同様です。しかし、ウイグル族の清真寺はアラビア式のものが多い。中国におけるイスラーム教を信仰する少数民族の中に、ウイグル族はムスリムでない民族との通婚率は一番低い。この点ではチベット族に似ている。最新統計によると、近年、ウイグル族と他の民族との通婚率は、ます

ます降下している。文化大革命を終えた直後よりも低い。政府部門はこの現象について関連する調査研究と分析を進めている。私からみれば、最大の問題はやはり信仰の問題です。もちろん他の問題もあるけれども。

問：新疆は中国において特殊な地理に位置し、民族も多いし、それらに対する統制も特殊な措置を取っているようでしょうね？

答：そうです。新疆は中国において唯一である三つのレベルの自治行政を揃えている自治区です。自治区にはそれぞれに自治州や自治県を設けている。

問：Mさん、あなたは回族の出身でしょうね？

答：そうです。

問：どこの出身でしょうか？

答：父親の出身はハミ地区S県のある回族郷ですが、私は昌吉回族自治県の生まれです。

問：ということはS県が故郷でしょうね？

答：そうです。父親の故郷です。父が50年代に北京大学で勉強した際、クラスメートの母と知り合い、卒業した後二人が一緒に新疆に戻ってきた。その後、ずっと昌吉回族自治州で教育の仕事に従事した。父は三年前に「帰真」した。母はまだ健在です。

問：母親の出身はどこでしょうか？

答：母は北京の出身で、漢族です。

問：父親はムスリムですか？

答：そうです。若い頃あまり清真寺に通っていなかったが、定年になってから、毎日清真寺に通うようになり、非常に敬虔だった。

問：Mさんはムスリムでしょうか？

答：私は清真寺に通って礼拝することをしない。但し、ムスリムの飲食習慣を固く堅持している。将来、私が亡くなる際には、ムスリム的に土葬してほしい。必ずムスリム的葬礼をやってほしいです。父には子供の頃「経文」を学ぶ機会があったが、私にはなかった。（「経文」は回族に用いられるイスラーム経典を記述しているアラビア語やペルシア語を指す用語である。）

問：Mさんの仕事の性質から見れば、あなたはきっと共産党のメンバーでしょうね？

答：そうです。

問：共産党の場合、宗教を信仰することは可能なのですか？

答：中国では宗教信仰自由の政策があり、党員は宗教を信仰する自由があるが、特定の教団組織に属することは許されない。但し、新疆では、「古壘邦節」と「肉辞節」はすでに固定的祝日となっているから、その日になると、イスラーム教を信仰する全ての民族の人々が休暇を取ることができる。祝日の日には、さまざまな部門で勤めている幹部や知識人らは、共産党員であったとしても、皆清真寺に行き礼拝をするのです。

平日では皆忙しくて、清真寺に行く時間はない。私ももしかしたら、父のように、老後に毎日清真寺に通うかもしれない。

問：ウルムチ市内にある清真寺を訪問することができますか？

答：駄目です。ウルムチ市政府は外国人の清真寺訪問を禁止している。清真寺は自由に入るところではない。とくにウイグル族が外部の人間を排斥している。

問：ご両親が結婚した際、「進教」という儀式を行ったことがあったのでしょうか？

答：そうです。行った。それを「改宗」とも言う。それ以来、母の戸籍は「回族」と登録されることになった。その後父の親族や外部においても皆母の回族の身分を認めた。

問：お母さんの親族はまだ北京にいますか？

答：そうです。まだいる、母はよく北京に戻るのです。生家の人々とはとても良い関係を保っている。また、飲食面ではお互いに十分に気をつけている。

問：Mさんが自分のこと、つまり共産党員でありながら回族でもあることについて、どう思うのでしょうか？

答：社会的立場では、私は敬虔な共産党員です。私的立場では敬虔なムスリムかもしれない。ただ、出身家庭にもよるが、もし、私が宗教職能者の家庭で生まれ育ったなら、たぶん強い宗教的な雰囲気にもまれて、共産党員としての役目が果たせないかもしれない。また、経済的な原因にもよると思う。たとえば、現在、新疆の南部の田舎で暮らしている回族は、子供に「経文」を学ばせ、「ソル（索儿）」と「ソンル（诵儿）」を読ませるために、宗教教育を行っている。

問：「ソル（索儿）」と「ソンル（诵儿）」とは何でしょうか？

答：それは葬式を行う時や墓祭りの際に歌う經典文の意味です。一般に、墓祭りの際阿訇を呼んで、阿訇によってそれを読みあげ、その後、お礼として阿訇に懺儿（金のことを指す用語）を払うというしきたりがある。このため、もし、自分の子供がそれを読み上げれば、金を払わなくても済ませられるから経済的です。

問：いわゆる新疆の民族問題を考えるとき、宗教問題すなわちイスラーム教とどのように関連して考えた方が良いでしょうか？

答：これは非常に複雑な問題です。私の立場では回答不能の問題でしょう！簡単にいえば、新疆の民族問題や宗教問題は内地とは違う。新疆の分裂主義や分裂活動はイスラーム信仰とは異なる。分裂主義的な活動は政治的な勢力に操作される問題で、宗教活動の性質とは違う。もっと言わせてもらえば、あれは宗教信仰を利用して分裂活動を行う行為です。これは西側世界からの中国の人権問題への批判とも関わっているから、この問題は非常に複雑なので、答えられないのです。

インタビュー（2）

時間：2004年6月

場所：新疆ウルムチ市

話者：Wさん（男・回族・研究者・40代）

問：Wさんはメッカ巡礼したことがありますか？

答：新疆のムスリムのメッカ巡礼の引率者として、二回も行った。

問：いつですか？

答：第一回目は90年代の中期でした。とても面白かった。メッカに二カ月間滞在した。

当時、私と毎日一緒にいたのは、新疆ウイグル出身のマイさんです、彼は通訳を務めた。我々はその間に地元の役人によく招待されていた。ときには、酒を飲ませられたことがあった。彼らは飲んだが、私は飲まなかった。他のところであれば、私は飲むかもしれないが、メッカでは絶対駄目。

問：あなたは本当に敬虔でしょうね！（笑）

答：そうでもないけど。メッカだから敬虔になったかも。

問：彼らの飲酒が他の人々に発見されるとどうなるの？

答：終えた後、ボトルを細かく砕き、下水道に流した。一度も見つけられたことはなかった。

問：メッカ滞在中、中国の回族と他の国々のムスリムとの相違点について、どのように考えたのか？

答：まずは、「大浄」と「小浄」のやり方が明らかに違う。サウジアラビアのムスリムは「大浄」と「小浄」を行うのは象徴的に過ぎず、中国の回族は水で徹底的に体を洗うの。

問：例えば、どういう風に？

答：サウジアラビアは多分水源が乏しいからかもしれないけど、砂で体を拭くと「大浄」と「小浄」と看なしていた。回族の場合は、「大浄」を行う際、水で徹底的に体を洗う。「小浄」の際においても、水で洗うべきところをきちんと洗うのです。

問：他の相違点は？

答：『コーラン』に対する態度も違うでしょう。例えば、回族の場合、どこにいても、いつでも『コーラン』をその場の一番高いところに置くことを心掛ける。具体的には、地面より高いところはベンチや腰掛、ベンチや腰掛にとって高いところは机やベッドのような認識がある。但し、サウジアラビアの人々、特に経学院に通う若者が、『コーラン』を地面に置き放題にしているのがよく目に入った。

ある日、一人の我が回族の年寄がサウジアラビアの若者によって地面に置かれていた『コーラン』を見たとき、凄く腹を立てた。年寄りはその若者らを厳しく批判したが、向うの若者がこちらの（中国語で）言うことは聞いても理解できずとても困り、弁解できなかった。すると、自らの過ちを認めないと思った回族の叔父さんはますます

怒った…。私から見れば、当時言葉が通じなかった双方の様子はとても面白かった。メッカ巡礼期間中、同様なケースがたびたびあったが、言葉が通じないのが残念だったが、同じムスリムだから紛争はなかったの、それをよく見た私にとっては一種の楽しみでもあった。

問：その期間中に回族のなにかを非難されたことがありましたか？

答：いいえ。なかった。というのは、私から見れば、中国の回族は漢文化という空間に身を置いているから、漢文化の影響を強く受けたのは事実です。例えば、飲食の習慣や教理教法の構成などにおいて漢文化の影響が強く見られている、この漢文化の影響が強く、だからこそ、かえって回族がどの国々のムスリムよりもイスラーム教に注意深くなっていたといえよう。メッカ巡礼期間中の回族にとって、イスラームの扱いに当たり油断は大敵です。

問：面白いです。では、回族と他の中国少数民族の相違点についてどのように考えますか？

答：回族という「民族」は他の民族集団ともっとも根本的な異なる点は、イスラーム教を信仰するところにある。また、中国の少数民族の中でイスラーム教を信仰する民族集団のほとんどは集中して住んでいるが、回族は全国各地に分布している。分散することも回族の民族意識を他の民族より強くさせる要因の一つだろうが、全国各地に分散している1000万人あまりの回族を一つの民族集団として結成したのは、イスラームへの信仰にほかならないだろう。

問：なるほど。では、Wさん自身は回族内部の宗派についてどのように考えているのでしょうか？

答：回族の知識人には種々な見解がある。私もこれについて研究を進めているところです。回族の教派について、現段階では、私は新疆のウイグル族の学者メメティサの解釈は馬通（阿布・優素普・馬通；1929年～；中国回族社会の「門宦」制度を研究する著名な学者）の解釈より納得できると思う。

また、正統的なイスラーム研究者は寧夏の「洪崗子道堂」（後掲本論文二の4「洪崗子拱北・清真寺」を参照）と呼ぶ宗派が理解できないと指摘している。それはスーフィー派に属しているが、中国のスーフィー派の「道堂」は道教と同様な色彩を帯びている。また、「洪崗子道堂」における教義の場合、教法教理からすればムハンマドから現在の教祖まで伝えられてきたことは納得できるが、血縁的・親族的にはムハンマドとは何もつながりがない。このため、私はメディナ大学留学期間中に中国のイスラーム教の各宗派の由来とその系図を探ろうとした際、メディナ大学の先生が協力してくれなかった。なぜならば、その先生が回族のスーフィー派の世襲制を断固として反対しているからである。

問：新疆の回族の内部においても西北地域の回族のように、その内部において教派に分か

れるのでしょうか？

答：1949年に新疆の回族ムスリムは連合して一人の「総教長」^[注2]を選出したことがあった。新疆の回族は西北の回族とは違い、それほどの教派を樹立したことはない。基本的には、新疆の回族のほとんどは中国イスラームの正統派である「カディーム」に属し、「フフィーヤ」派の「門宦」制度に反対する。その内部においても「カディーム」か「フフィーヤ」かのように分けない。

インタビュー（3）

時間：2004年6月

場所：新疆吐魯番市

話者：V（男・回族・幹部・40代）

Z（男・漢族・運転手・20代）

問：Vさんはどのくらい回族に対する愛着心をもつのか？（笑）

V答：そうですね！回族の由来は他の民族とは違うから、私はとくにその由来に関心を持つのだ。このため大学に進学した際、わざわざ少数民族の歴史をも教える大学の歴史科を選んだのです。在学中、まず古典に力を入れたのです。人民大学や北京大学の歴史科の学生と古典のレベルチェックするための試験の際、私ともう一人のクラスメートがそれに参加し、二人ともトップの成績を取った。自分の民族の歴史がわからなければ、自民族愛ということではできないと思うが…。

また、自分の祖先たちがどのくらいの苦労を経て、ついにこの地に根付いたのかを体験するために、寧夏回族自治区の友人がここを訪れたとき、彼と一緒にかつてのキャラバンを真似たこともあった。我々はラクダに乗り、新疆の南部から北部まで進行しようと計画した。最初の二日間は楽しく歩いたのだったが、大変で一週間も過ぎないのにこの計画を中断した。このため、古代の祖先たちの精神に感動させられた。彼らの試みや苦労がなければ、我々の現在、もっと言えば中国の回族というものもなかったといえる。なぜなら、古代の祖先がまずこの広々西北に定着したからだ…。

問：奥さんも回族の出身でしょうね？

運転手Z答：それは当然です。私は彼の奥さんの父親の運転手だよ。

運転手に対しての質問：あなたは回族でしょうか？

Z答：いいえ。漢族です。でも彼の義理の父のために車を運転するから、回族に近いです（笑）。

問：回族をどう思うのですか？

Z答：とくにない。皆同じです。彼の義理の父親はとても善良な方です。自分の病院を経営しているが、善行ばかりなので、金をもうける目的ではなかった。

問：もうけた金は？

V答：ほとんどは清真寺に寄付した（笑う）。

問：義理の父親が清真寺に通いますか？

V答：現在清真寺に根付いたように毎日通う。若い頃は通ってなかったという。メッカ巡礼から戻った後、病院の経営もどうでも良いようになり、清真寺での礼拝に夢中になった。先ほど言った寧夏の友人ですけれど、彼が新疆まで来た当初、私が忙しくて彼と行動を共にすることができず、義理の父に紹介した。つまり、義理の父はイスラーム教についての知識は豊富ですから、彼がきつといろいろと勉強できると思って、彼を義理の父に紹介した。しかし、後で友人はとても退屈だったと言った。というのは、義理の父が朝から晩までずっと清真寺において、きちんと毎日五回の礼拝をするから、友人はいくら回族であってもその父に耐えられなかった様子で…。

問：Vさんは老後になると、このような清真寺中心の生活を送れるか？

V答：はっきりとわからないですけど。その時の社会環境はどのように変化するのかわからない。ただし、心のより所のない老後生活は寂しい。現在我々は皆一人っ子しか生めず、子供が大人になって家を出ると、我々夫婦はやることがなければ、恐らく清真寺にしか行く先はないだろう。私の奥さんには兄弟三人もいるのに、その父親は誰にも頼らず、清真寺こそ彼の唯一の頼もしいところみたい。

問：病院の経営はどうなっているのか？

V答：他の人に任せている。中医学の病院ですから、その病院に通ってきた人々は漢族もいれば、回族やウイグル族もいる。経営面では問題がない。

インタビュー（4）

時間：2004年6月

場所：新疆ウルムチ市

話者：Q（男・回族・レストラン経営者・40代）

A（男・ウイグル族・大学教師・40代）

問：この店はあなたが経営しているのか？

Q答：そうです。ウルムチ市には沢山の回民がいて、またウイグル族やほかのムスリムもいるので、このお店はよく利用されている。

問：Qさんはウルムチの出身ですか？

Q答：いいえ。祖先の故郷は甘肅省の河州だった。私はウルムチ市のすぐ北のある昌吉回族自治区の米泉県で生まれ育った。実家は現在も昌吉回族自治州米泉県太平区にある。

問：どうしてウルムチでお店を開いたのでしょうか？

Q答：私は以前他のレストランで調理を学び、資格を取った後自立した。私は90年代の

始め頃ウクライナやトルコにいったこともあった。そこで自分の店も開いた。

問：いかがでしたか？外国での生活は楽しかった？

Q答：とても楽しかったよ。中国と比べると自由感が溢れ、とても快適だった。何を言ってもやはりかつての中国の政策は良いとはいえなかった…。

問：外国にいた時、言葉は通じたのか？

Q答：通じなかったが、回族やウイグル族の留学生のお陰で特に問題はなかった。だって私もムスリムで、彼らと同じ信仰を持つから、生活面での障害はなかった。その時点での彼らの戦い（1990年代初期の旧ソ連崩壊するまでウクライナの民主運動をいう）にも参加したよ…。

問：それは凄い。ウクライナとトルコに居たとき、清真寺に通ったことがあったのか？

Q答：両国において通うことがあった。また、トルコのアンカラの体育館や駅を利用し、礼拝したこともあった。

問：あなたは相当敬虔なムスリムですね！

Q答：そうでもないが、イスラーム教は我が回族の命ですから。回族には私のような人もいれば、そうでない人間もいる。我々回族は両極端に分化されている。優秀な者は凄く優秀で、駄目な奴は相当駄目だよ。

問：そうですか？では、Qさんもかなり優秀でしょうね？

Q答：いいえ。私は一般的な人間だ、教育を受ける機会も少なく、とても残念に思う。実際、私は子供たちが良い教育をうけさせるために、「停薪留職」（元の所属の職場に職しか保留せず、給料は要らない）という形で、あるレストランでコックを学んだ。その後は自営業となった…。

問：子供は何人ですか？

Q答：双生児の息子二人です。今年13歳で、中学校一年生です。

問：二人とも男の子で、あなたとあなたの両親たちはきっと満足したのね？

Q答：まあ、男の子も女の子も皆一緒ですけど…。

A答：そうです。イスラーム教の家族観には男尊女卑ということはない。それはイスラーム教の生命観や世界観によるものです。

Q答：そうです。このため、私は自分の出身を誇りと思うの。

問：失礼かもしれないが、あなたの苗字とあなたの気品からすれば、もしかしたら馬明心の奥さん張夫人^[注3]の後裔でしょうか？

Q答：正解です。祖先は張夫人の一族です。我らの一族が張夫人とともに新疆に流罪された後、そのほとんどが新疆北部に定着した。現在、新疆北部には何十万人のジャフリーヤ派がいる。あなたたちが吐魯番に行ったと聞いたが、張夫人のゴンバイ（聖墓）は吐魯番頭道河にもあるよ。毎年張夫人がなくなった日にあちこちで墓祭りを行うの。

問：新疆で生活している回族と新疆のその他の民族とはどこが違うのでしょうか？

A答：基本的には皆一緒でしょう。ただ、信仰生活はやや違います。例えば、タジク族の場合、40歳になってからはじめて清真寺に通う。それは、40歳まではあらゆる面においての自己管理の能力が低く、いわば、自己の行為を抑えられなく、完全なムスリムとしては認められないから、清真寺に通うことはしない。

問：Qさんはいつごろから清真寺に通い始めたの？

Q答：少年時代は文革期だった。その後も清真寺に通うことはできなかった。80年代の後半から清真寺に通い始めたが、毎日行くことはできない。ただし、金曜日は必ず集合礼をしに行く。現在も同様です。

A答：近年では、新疆の回族の若者が清真寺に通う人がますます多くなってきた。またメッカ巡礼に行きたい回族の若者もますます増えてきた。たとえ、自費でも行くの。国家が毎年一定のメッカ巡礼に参加者の枠を新疆と与え、新疆の政府部門によって巡礼の参加者を組織し、メッカまで連れて行くの。昨年では1500名あまりの回族・ウイグル族などの民族のムスリムを組織し、メッカ巡礼に行ったが、自費で行く人がさらに多いです。統計しきれないけれども…。

問：そうでしょうか。近年、若者のほとんどが清真寺に通っていないと聞いたが…。

A答：かつての人々が社会主義的理念を追い求めたことと同様でしょう。年寄りがかつて共産主義や社会主義への信仰心を持ったが、80年代以来、改革開放や市場経済の情勢下では、若者が何を追い求めればよいのか、分からない人々がだんだんと多くなってきた。彼らがかつての人々のような信仰心を持つわけでもないが、精神のよりどころを追い求めることは確かだ。

もともと新疆はイスラーム教の影響を強く受けている地域だから、ここで暮らしている民族のほとんどはムスリムでもあるから、若者が清真寺に通う現象がますます多くなったことは、異常や不自然なことではない。近年、若者のイスラームへの理解の次元は以前よりかなり高くなってきた…。

問：回族とウイグル族の若者は同じですか？

A答：同じです。改革開放後、悪しき売買や賭博が町中のあちこちに現われてきた。ウイグルの若者の中には、それらに同調したくない、またはそのような誘惑や脅威から抜けだしたいために、とくに清真寺に通い始めたケースが多くなってきた。やはり、ムスリムにとっては、イスラーム教は人々を名声や物欲から解放できる本物の信仰です…。

問：ということは、改革開放後の20年間において、新疆の回族やウイグル族の人々はイスラーム教を新たに位置づけたのでしょうか？

A答：そうですが、とくに市場経済化以来、新疆の人々のイスラーム教に対する認識が高まるようになり、また新たに位置づけられた。

問：それはなぜでしょうか？

A答：原因はさまざまですけど。貧富の差がますます激しくなり、若者の中にも物質の充実さを追い求める者と精神の充実さを追求する者という二分化の現象が現われている。かつての共産主義や社会主義の理念と現在の市場経済化とはあまりも違うから…。

問：社会面では、回族とその他の民族の差はどのように見分けるのでしょうか？

A答：やや複雑な問題ですけれども。新疆の回族のほとんどが都市や町に集中しているので、都市人口の比率はウイグル族やカザフ族より高い。けれども、政治的地位はウイグル族やカザフ族よりは低いです。中国ではある民族の地位を評価する基準として、主にその民族の自治水準による。回族は新疆の主体民族ではなく、昌吉回族自治区があったとしても、その人口はかなり分散している。また、新疆では回族出身の実権派が少ないのも事実です。これらも回族のイスラーム教への信仰心がどの民族よりも強い要因の一つだろう。つまり彼らの絆はイスラーム教への信仰にほかならないと思うけど…。

問：回族の都市人口なぜ多いのでしょうか？

A答：政府部門に勤める回族は少ないけれども、一般の回族の人々のほとんどが小売やサービス業に従事している。たとえば、ウルムチ市からイリ地区までほとんどの宿泊施設や飲食店は回族によって経営されている。これに対し、他の民族の一般の人々は田舎で農業や牧畜業を営んでいる。

問：なるほど、これは面白いです。

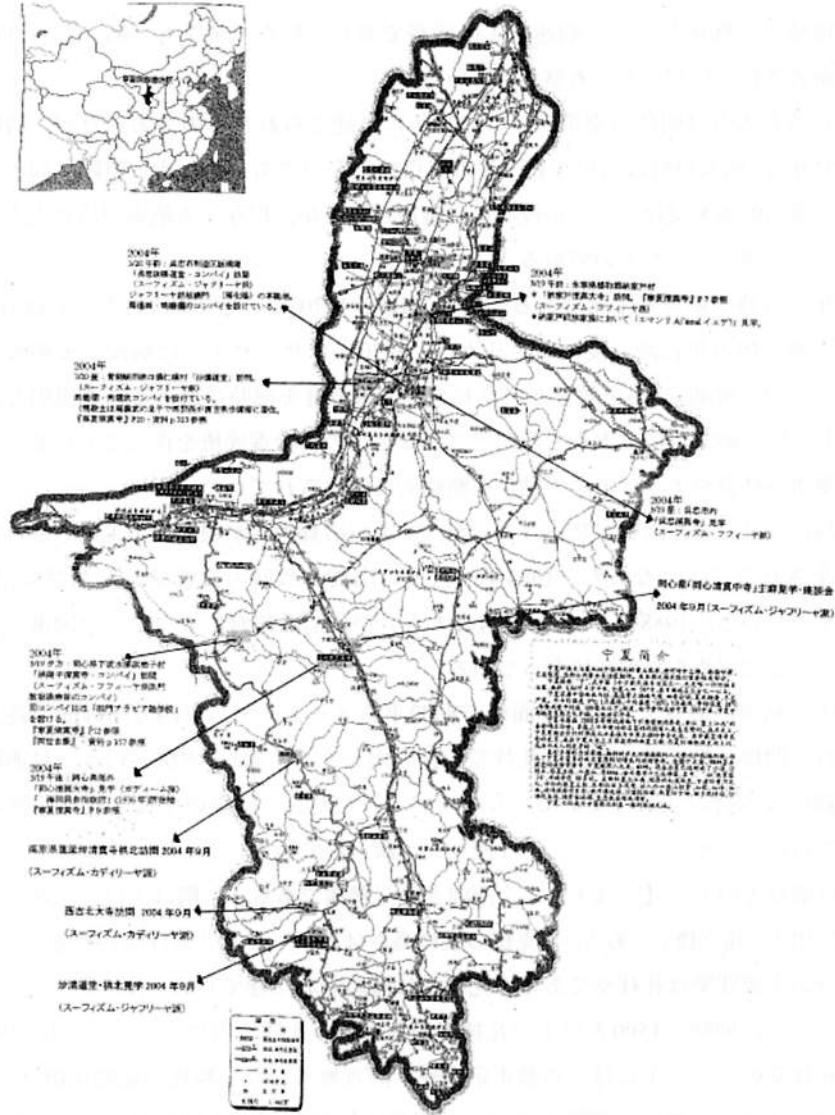
A答：歴史上においても回族が商業に長けていることはすでに注目されている。つまり、回族は古代中国の商業に貢献があったということです。ケンブリッジ大学の『中国明清史』には回族の商業についてもとくに述べている。いうなれば、回族は他の民族よりは商業の才能を重んじていると思う。

二. 回族清真寺・拱北からみる中国におけるイスラーム教の空間構築

以下、寧夏、北京、新疆の順に、また訪問した順によってそれぞれの清真寺と拱北や共同墓地の歴史変容とその建築の仕組みを概略的に述べておく。また、実際に調査した寧夏の清真寺や共同墓地の所在地は【図1】に示されている。

1. 寧夏「納家戸清真大寺」——スーフィズム・フフィーヤ派——

銀川市から20キロ離れている永寧県楊和郷納家戸村の中心部に設けられている。納家戸村は著名な回族の居住地であり、村の総人口は4000人あまりで、回族は97%を占めており、そのうち65%以上の村民が「納」という苗字を持つ。



【図1：寧夏調査先分布図（2004年3月・9月分）】

納家戸村の「納」という苗字をもつ人々が、プハラ出身のムスリムである元代の政治家サイード・エジェル（賽典赤・贍思丁）の長男納速刺丁の後裔の一部であるという伝承がある。納速刺丁が1291年に元朝の陝西平章政事（延安王）を任命され、その一族が陝西に定着した後、彼の四人の息子が、それぞれ「納」「速」「拉」「丁」を苗字にした。

納家戸村の形成については、確実な記録はなかったが、納家戸清真大寺には「吾家棄秦移居西夏，吾寺起建於明嘉靖年間」（我が一家が秦を離れ西夏に移動し、我が寺が明嘉靖

年間に建て始め)という扁額があり、これによって納家戸村は明嘉靖年間(1522-66年)に陝西地域から移民してきた納速刺丁の後裔であり、村もモスクも「納」という苗字によって命名されるに至ったと考察されている^[注4]。

納家戸清真大寺は明代の嘉靖三年(1524年)に建てられたものであったが、清同治十年(1871年)、納家戸村は回民起義^[注5]の拠点のひとつであったため、乾隆・同治年間には前後二度の破壊を受けた。その後次第に修復されたが、現存する納家戸清真大寺の主な建築は清末に建てられたものである。

1938年、当時の寧夏省主席である馬鴻逵(1892-1970年、民国時代の寧夏省政府主席・甘肅省主席。1949年台湾、後にアメリカへ。1970年ロサンゼルスに病没;後掲参考書による)が「中阿併進」(漢語教育とアラビア=宗教教育を同時に進める)を提唱し、この指示のもとに、納家戸清真大寺で漢語とアラビア語の初級養成班を作ることがあった。その後、漢語や経典やアラビア語の勉強が断続的に続けられていた。

文革時代では、礼拝活動が禁止されたが、納家戸清真大寺が粮食加工工場とされていたため保全されることになった。1984年、村民の出資と政府の投資でふたたび修復され、現在に至っている。1988年、「納家戸清真大寺」が自治区政府によって「全国重点文物保护单位」として定められ現在に至っている。

現存する納家戸清真大寺の全体面積が8000平方メートルで、東西方向の横型長方形に建てられ、門楼・礼拝堂・廂房(礼拝堂の前方両わきの家屋)・水房という一見典型的な中国伝統的な四合院式の建築群からなっている。ただし、建築の中はアラビア風に飾られ、あるいはアラビアやペルシア的な飾り物が飾られている。

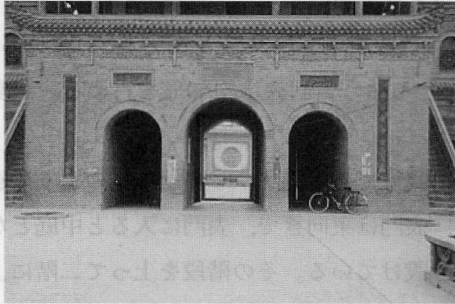
門楼は清真寺の入口【写真1】で、南向きの三階建である。一階は入口、二階は礼拝の呼びかけ用の「邦克楼」である。邦克楼の上に高さは21メートルの「望月楼」を建てている。

清真寺の主要建築は礼拝堂である。礼拝堂は庭の中心に建てられ、南向きで、約950平方メートルで、同時に1500人以上の礼拝者が入れる。礼拝堂内に立っている柱は84本である。礼拝堂の入口の上には「古教正宗」や「清真無二」など数枚の扁額が掛けている。礼拝堂はイスラーム教的に設置している【写真2】現在、毎日平均50人あまりのムスリムが礼拝しに来る、金曜日の集合礼では何百人もくるという。

礼拝堂の前方両わきに並んでいる廂房には、会議室や応接室、阿訇や満拉たちの教室や寄宿舎がある。満拉は15人いて、阿訇の指導下でアラビア語やペルシア語と漢語が混ざっている教典を勉強している【写真3・4】。満拉のほとんどは中学校を卒業した若者であるが、成年者もいる。

また、礼拝の前に「小浄」と「大浄」を行う。そのために設けている水房は廂房の一番南の室の裏側にある。廂房と水房があわせて約240メートルの面積を占めている。

清真寺には「寺管理委員会」を設けており、管理委員会のメンバーは宗教職能者とムス



【写真1】 納家戸清真寺表門・2004年3月



【写真2】 納家戸清真大寺禮拜堂・2004年3月



【写真3】 阿訇と満拉・2004年3月



【写真4】 学员学习規則・2004年3月



【写真5】 回族家族の尔麦里儀式・阿訇らのアラビア語で『クルアーン』の読み上げ



【写真6】 回族家族の尔麦里儀式・2004年3月

リムの村民から組織され、管理委員会の規則は明示されている。

また、納家戸清真大寺を訪問した日、筆者二人が阿訇の許可を得、阿訇についてある回族村民の家族に行われた「尔麦里」(法事)を見学する機会を得た【写真5・6】。その日はその家族の主人の父親が亡くなって九年目の忌日であった。儀式中で彼らと言葉を交わすことができなかったが、阿訇たちがアラビア語で『クルアーン』を読み上げた声は我々にインパクトを与えた。

2. 寧夏「吳忠清真寺」——スーフィズム・フフィーヤ派——

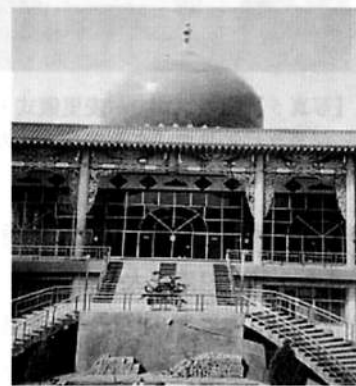
吳忠清真寺は寧夏の北中部にある銀南地区の行政政府所在地吳忠市に設けられている。吳忠市の総人口は29万あまり（2000年統計）で、そのうち回族は約60%を占める。寧夏のうち最大の回族人口を持つ地区である。

吳忠清真寺はスーフィズム・フフィーヤ派の清真寺である。アラビア風に城のように建てられている。清真寺全体は二階建てのもので、表門は東向きで、表門に入ると中庭となる。中庭の真ん中に東向きに二階建ての礼拝堂を設けている。その階段を上って二階に上がると、礼拝堂の玄関とその前が通路である。玄関前の通路は右側（北側）と左側（南側）の廊下とつながっている。その両側の部屋は城郭になっている。調査の日では礼拝堂はまだリフォーム中で、見学はできなかった【写真7】。

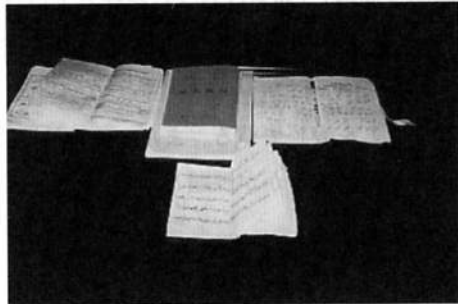
礼拝堂の右側（北側）に並んでいる部屋は会議室と教室であり、見学のとき、満拉たちはお昼休みで教室にはいなかったが、その日の勉強用のテキストが机の上に置いてあった【写真8・9】。満拉は15人いて、阿訇にアラビア語と経典について教わっている【写真10】。教室の前の廊下ではある田舎からの女性信者と会った【写真11】。女性は「我々フフィーヤはこの清真寺しか通わない」、また、彼女が住んでいる村の清真寺の建設で、この清真寺の援助をもらうために相談しにきたと自己紹介してくれた。

教室や会議室とつながる東南側は教長阿訇の事務室である。事務室において阿訇と市の税務所の役人が寺の建設用の土地使用税金に関する交渉話が聞こえた。事務室前の廊下を通って南側に向かうと、二階の南側の角には家屋がまだ建っていない。すなわち清真寺全体からすれば、二階の南側の角にはまだ家屋を建設していない。二階の西南の角に部屋を設けると、その部屋は隣のレストランの二階のネオンサイン看板を遮る。このため、清真寺とそのレストランとの間に揉め事が起きた。清真寺の管理人が「隣のレストランが引っ越してくれない限りここでは二階の部屋を建設できない。あのレストランを引っ越させる費用は、我が清真寺にない…」という苦情であった【図2】。主にこの清真寺を祭る信者の寄付によって維持されている吳忠清真寺にとっては、隣のレストランとの関係は今後の課題となっている。

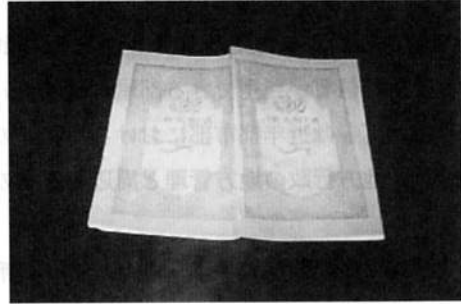
二階の南側の部屋は女性信者用の礼拝堂である。この二階の西側の角から階段をおりると、その直下の一階の南側の角部屋は女性信者用のシャワー室であり、その隣は男性用のシャワー室である。表門を通過して一階の東南側の部屋は清真寺の食堂であり、食堂は台所とつながっている。調査の日には、翌日の回族同志の結婚式があるということで、結婚式の食事を準備する



【写真7】 吳忠清真寺の礼拝堂・
2004年3月



【写真8】 吳忠清真寺の満拉が用の教科書・
2004年3月



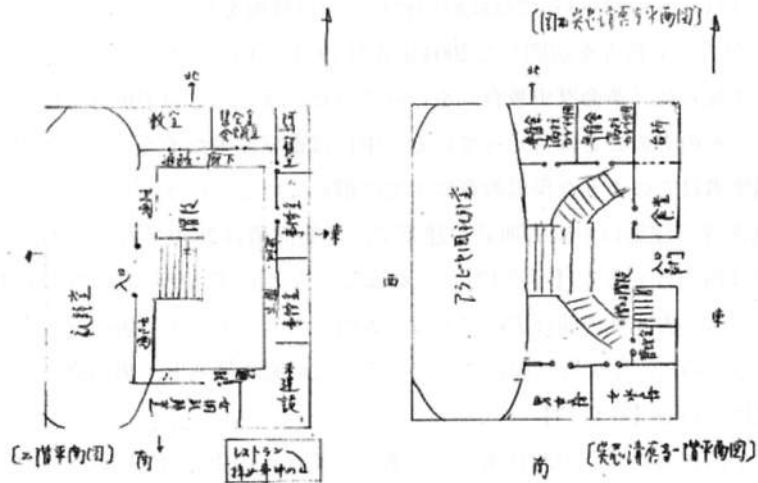
【写真9】 吳忠清真寺の満拉が用の教科書・
2004年3月



【写真10】 吳忠清真寺の教長と満拉・
2004年3月



【写真11】 吳忠清真寺にきたフイーヤ派の回族
女性（左）と宗教職能者・2004年3月



【図2】 寧夏吳忠清真寺平面図（2004年3月時点）

ために、同一教派の人々が食堂に集まって、回族の「油香」(油あげパン)を作っていた。食堂と並んでいる北側の部屋は寺の宗教職能者や満拉の寄宿舍である。また、遠方からやってきた信者が利用できる部屋も設けている。

吳忠清真寺は近年都市部における清真寺の建設ブームを表している。また、その建設に当たり、地方行政の地方管理と周辺関係との調和を如何に取るかが課題となる。

3. 寧夏「同心清真大寺」——カディーム派——

同心県政府の所在地の同心鎮は銀川から200キロ離れ、寧夏の中部に位置している。同心県のシンボルとされている同心清真寺は、中国イスラーム教の正統派であるカディーム派に属し、同心鎮の西南方向に位置し、町から2キロ離れている【図1参照】。

同心清真大寺は明代の初期に建てられ、その前身はラマ教の寺院であったという伝承がある。明の万暦年間と清の乾隆五十六年(1791年)とその後の光緒三十三年(1907年)には、三度にわたり修復や拡大の工事が行われた。

同心大寺はムスリムの活動場所のみではなく、中国共産党の革命史を記録している場所でもある。1936年、万里の長征を行っていた中国工農紅軍がその途中、同心県に着いた後、地元の回民をこの寺に集めて、各界にわたる代表大会を開催し、中国歴史上初めての県レベルの行政権限を持つ回民自治政権である「陝甘寧豫海回民自治政府」^[注6](1936年10月20日成立)を設立した。また、1938年、同心大寺が当時の寧夏省主席である馬鴻逵の指示下で、漢語初期補修班を開設したことがあった。1958年、同心清真大寺は寧夏回族自治区人民政府により「自治区重点文物保護單位」(自治区レベル重点文化財)の一つとして指定された。1982-83年では政府の投資で再度修復を行った。

筆者二人がこの清真寺を訪問した2004年3月19日の午後には、地元のある小学校が同心清真寺で生徒らに「革命歴史教育」を行っていた。ほとんどの子供は普段この寺に来ないというが、その寺のことは皆知っている。中には遊びに来た子もいる。阿訇をはじめほかの宗教職能者はこのような現場教育にすでに慣れていているという。

同心清真大寺の建築は中国古典式の建築で、建築面積は2870平方メートルである。清真寺の表門は西向きであり【写真12】、これはこの寺の前身はラマ教のものであったことと関連している。表門外の前は広場である。表門から入ると、すぐ表の庭であり、多くの人数を集めるために、重要な活動はここで行う。この庭を通ると、裏の庭に入る。中には礼拝堂を設けている【写真13】。

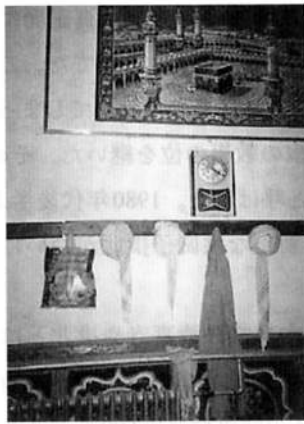
礼拝堂は中国古典式で、表門は南向きである。礼拝堂の中には20余りの柱を立てられ、木製の床を敷いている。同時に1000人余りを収容できる【写真14・15】。また、礼拝堂の北部と南部にはそれぞれ五つの講堂を設けていて、礼拝堂と合わせて、三合院式の建築群となる。講堂には会議室や応接室、阿訇や満拉たちの教室や寄宿舍がある。



【写真12】同心清真大寺の表門・2004年3月



【写真13】同心清真大寺禮拜堂・2004年3月

【写真14】同心清真大寺禮拜堂内部・
2004年3月

【写真15】同心清真寺の阿訇・2004年3月

また、同心大寺にも「寺管理委員会」が設けられており、同心県の宗教管理局の指導下で寺の管理をしている。寺で生活している宗教職能者の日常生活にかかる費用などは信者たちの喜捨によるもので、寺の施設を管理する費用は自治区政府の宗教管理局によるものである。近年ここに観光にきた観光客も少なくない。

4. 寧夏「洪崗子拱北・清真寺」——スーフィズム・フフィーヤ派洪門宦——

洪崗子拱北と清真寺は同心県下流水郷洪崗子村に建てられている。この村に住むほとんどの人々の苗字は「洪」であるため、「洪」をもって村の名前にした。洪崗子拱北はスーフィズム・フフィーヤ派洪門宦の教祖である洪寿林（1852-1937年、洪海儒や洪老太爺とも言う）を祭るために建てられた宗教建築であり、フフィーヤ派洪門宦の総本山でもある。

フフィーヤ派は新疆から西北地域に伝わり、そのルートが多岐に見られている。洪門宦の教祖洪寿林は甘肅省の出身で、幼児の頃寧夏同心地域までやってきて、後は清真寺で雑務をしながら、イスラーム教典の勉強に専心した。その後各地の宗教学校に通って、終に名が高まり大阿訇になった。1893年洪寿林がフフィーヤ派教祖の位置を継ぎ、洪崗子村で道堂を開いた。また、すべてその道堂に身を寄せてきた貧しい人間を無償で養った。そ

の間、寧夏軍閥馬鴻賓（1884-1960年；1940年代後半、中国共産党と和解、のち西北軍政委員会副主席・甘肅省副省長を務めた）が洪寿林の人柄や学問に敬服し、洪門道堂の信者となった。このため、民国時代には、洪寿林と馬鴻賓は師資関係を保っていた。

1936年、中国工農紅軍十五軍団が同心県に駐在しているうち、洪寿林が紅軍の抗日救国の方針を支持し、紅軍の西征の道を開くために馬鴻賓に勧め、馬鴻賓が彼の勧めを受け入れた。また、物質面においても紅軍に援助の手を差し伸べることがあった。このため、十五軍団紅軍の団長唐天際が洪寿林に「寿林回族大教主 愛民如天 漢族同胞程宗受・唐天際敬贈」という紅い緞子の掛け物を贈呈した。

1937年、洪寿林が亡くなった後、教徒らがお墓の上に煉瓦作りの八卦亭（八卦型の欄干付くのおずまや）を作り、それを中心にして両側に水房や静座室、真正面に「照壁」（門の真向かいの内側に設けられている目隠し用の壁）や「門楼」も建てた。これは洪崗子拱北の初期の建築群であったが、1960年代の文革時代には焼き払われてしまった。

1977年、洪寿林の長孫洪維宗阿訇がフイーヤ派洪門宦の教祖の位を継いだ。その後、洪維宗が寧夏自治区人民代表大会の副主任を勤め、哈吉と呼ばれた。1980年代後半より、彼の指導下において洪崗子拱北を再建し始めた。1994年新たな洪崗子拱北がついに落成し、現在までにいたっている【写真16】。

新たに建築されていた洪崗子拱北は寧夏のほかの中国古典式の清真寺や拱北とは異なる。中国風に庭園風の建築とアラビア風の建築を混ぜ込んで、または西欧的建築技術を吸収した上建てられた建築群である。洪崗子コンバイの全体の建築群は28600平方メートルである。正門はアラビア風の建築である【写真17】。正門から庭に入ると、真正面にある建築は洪寿林の拱北であり、南向きに中国風とアラビア風が混在して建てられ、50畝（一畝は6.667アール）の面積を占めており、北から南までの縦長さは400メートル、東から西までの幅は70メートルであり、また墓は周囲の100畝の樹林に囲まれる。

拱北の左側（西側）には洪崗子清真寺があり、中国古典式の建築である。清真寺の南側では「洪崗子イスラーム経学院」に通う満拉用の食堂、北側では駐車場をそれぞれに設けている。右側（東側）には「洪崗子イスラーム経学院」の教学楼と休憩室、または羊や牛を殺す場の施設を設けている。「洪崗子イスラーム経学院」は洪崗子拱北によって経営されている。2003年の秋に開学し、現任教祖洪楊が校長ならびに教師を担当し、彼が学校を管理している。主な教義は『コーラン』である。アラビア語は必須科目としている。就学年数は三年とされ、卒業後は大規模なのイスラーム経学院に進学させること目指している。

経学院は洪門派に属している信者から満拉を募集し、2004年3月時点では在学満拉30人がいて、そのうち新疆出身の回族が80%以上を占めている。これは新疆ではフイーヤ派の信者が多いこと、およびフイーヤ派が新疆から伝えられてきたことと関連すると説明してくれた。経学院の新しい学期は3月25日から始まるということで、我々が調査



【写真16】 洪崗子拱北全景



【写真17】 洪崗子拱北入口のアラビア風建物

【写真18】 洪崗子経学院の満拉たち・
2004年3月【写真19】 樋口・高と雑務をする回族女性
・2004年3月

した3月19日には、満拉全員がまだ揃っていないが、すでに十数名が登校している【写真18】。

経学院のすべての施設、寄宿舍・教材は無料で満拉到に提供されている。満拉全員の食事現任教祖が負担している。その日我々が満拉の食堂で彼らと一緒に「抓飯」という中央アジア風のご飯を食べた。「抓飯」というのは、箸の代わりにご飯を手づかみで食べることから呼ばれた言葉である。満拉にご飯を作ってくれるのは二人の老夫婦で、ご飯を作る以外に雑務も担当し、彼らの食事現任教祖によって負担されている【写真19】。



【写真20】 フフィーヤ派洪門現任教祖(中)と一緒に・2004年3月

現在の教主洪楊は洪維宗の息子で、もともと北京大学東方語学院でアラビア語を専攻し、その後パキスタンで七年間イスラーム教に関する勉強を行った。現在、教祖を務めながら、寧夏自治区政治協商委員などを担当している【写真20】。

洪門の伝承ルートは初代教祖の安西太爺（馬方）から→康成太爺→大通太爺→碱溝井太爺→涼州莊太爺→洪老太爺（洪寿林）→洪維宗→洪楊。現在、洪門に属している信者は20万余がいて、主に寧夏（約10万）、甘肅、青海、新疆、陝西、雲南、河南などの地域に分布している。また、「太爺」とは教祖の意味であり、中国在来的な親族称号の「曾祖父」に当たる呼び方である。

5. 寧夏「吳忠板橋道堂・拱北」——スーフイズム・ジャフリーヤ派板橋門宦——

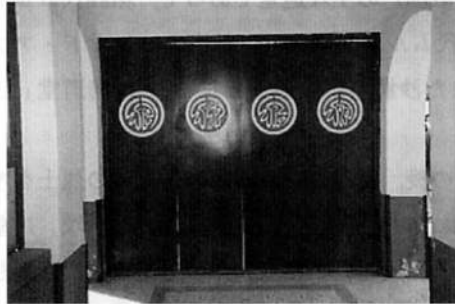
吳忠板橋道堂は前述2の吳忠市清真寺の西南部に位置している利通区板橋郷に設けられている。この道堂を作ったのは中国スーフイズム・ジャフリーヤ派の第三代の教主馬達天（1757-1812）だったという説はあるが、はっきりとした記載は残っていない。馬達天は第二代教祖穆憲章の学生であり、清朝に逮捕された後、監獄の中で教祖の権限を息子馬以德（教名ムハンマド・サフィー）に与えた。馬以德はまた後述の洪楽府道堂を作り、その拱北は洪楽府道堂に設けてられている。

馬以德は亡くなる前に教祖の権限をその息子馬化龍に与え、馬化龍（1810-1871；教名ムハンマド・イーマーン）は中国スーフイズム・ジャフリーヤ派板橋門宦の第五代教祖となり、吳忠板橋道堂を彼の総本山にした。

馬化龍は商業に従事する機会を利用し、西北地域に広く布教し、信者を拡大した。このため、彼によって教祖馬明心^(注3)に次いで中国のスーフイズム・ジャフリーヤ派の第二期の興隆期を迎えた。1865年彼が清の軍隊に敗れ、地方の民を守るために清朝に帰服し、提督という官職を授与され、馬朝清と改名したが、1869年に自衛のためにふたたび蜂起し、1871年に（同治十年）清軍に殺害された。それ以来、信者に「十三太爺」と尊称されてきている。

1871年に（同治十年）以来、中華民国が成立するまで、中国におけるジャフリーヤ派は異端とみなされ、百三十年以上にわたり禁止されたが、同じ反清派として民国政府が密かに活動を続けてきたジャフリーヤ派の活動を解放するようにした。このため、20世紀の20年代になると、馬化龍の唯一の孫馬進西がジャフリーヤ派の第六代教主として、板橋郷にジャフリーヤ派の道堂を設けて、村落の名前である「板橋」を用いて道堂に名をつけていた。板橋郷の前身は明代の洪武年間に設けられていた板橋里であり、秦渠という川の上に架けていた板で作った橋によって村の名前にした。村民の大部分は回族であった。

当時建てられていた道堂と教主の住宅は、方形の城郭のようにつくられ、城の中は城内と城外という二つの建築群に分けられていた。城内は四合院式の建築であり、教主の住宅は西側、道堂は真ん中、拱北は東側、拱北の北側には清真寺であるようにそれぞれに設けられた。城外は広場を中心に、その周囲が応接室、信者の寄宿舍などの施設を設けた。1940年馬進西が亡くなった後、彼の拱北はこの道堂に建設された。



【写真21】 吳忠板橋道堂の入口・2004年3月



【写真22】 吳忠板橋道堂の禮拜堂・2004年3月



【写真23】 吳忠板橋道堂に祭われている馬進西・馬騰靄の拱北・2004年3月

馬進西が亡くなった後、彼の息子馬騰靄(1895-1991年)が第六代の教祖としてその地位を継いだ。馬騰靄の経名はムハンマド・グデルトラという。彼が教祖馬明心から伝えられてきた教義を忠実に継いだと認識される。民国時代では寧夏省参議会副会長、国民代表大会代表を勤め、中国人民共

和国時代では、寧夏自治区政治協商委員、寧夏自治区政府副主席、全国人民代表大会委員、民族事務委員を務めた。1991年歿後、ここに拱北を設けた。

文化大革命の時期には吳忠板橋道堂が崩壊されたが、1981年に再建された【写真21・22】。第六代教祖馬進西夫婦とその息子であり、第六代教祖馬騰靄の拱北が保存されている【写真23】。

また、現在、板橋道堂には寧夏では120あまり、新疆では約20、甘肅、青海、江蘇などの省では10余りの教坊(板橋門宦に属する教団)、合計約150の教坊がある。信者は6万人あまりを有するという。現在、毎年の旧曆正月の十三日の馬騰靄が亡くなった日には、甘肅省や青海省と新疆などの地域から、何千人から何万人までに及ぶ信者がここに集まり、「大尔麦里」を行う。このため、1990年代の中期に道堂には信者用の寄宿舍を増設した。この道堂の伝承は、馬明心→穆憲章→馬達天→馬以德→馬化龍→馬進成→馬進西→馬騰靄とされている。

6. 寧夏「洪樂府道堂・拱北」——スーフイズム・ジャフリーヤ派沙溝門宦——

洪樂府道堂は寧夏北中部に位置している青銅峽市峽口鎮任橋村に設けている。後述8の

中国スーフイズム・ジャフリーヤ派沙溝門宦（教団）の主な道堂であって、第四代ムルシド馬以德（教名ムハンマド・サフィー）・第八代ムルシド馬震武（教名ムハンマド・アブドゥル・ジャーミー）の拱北を設けている。また沙溝門宦の道堂として、「沙溝道堂」とも呼ぶ。

洪楽府道堂は清代の乾隆末期に建てられ、その後、歴代の宗教職能者と反清の烈士を埋葬していたため、共同墓地を形成し、「洪楽府拱北」や「坟上」とも呼ばれた。「坟」は墓の意味である。また、洪楽府道堂は同治年間での回民起義の拠点の一つであって、回民起義が失敗した後、洪楽府道堂とすべての墓地が清の軍に焼かれ、清の軍隊の兵営が設けられていた。また、道堂の信者のほとんども殺された。そして、その後、百年間以上にわたりジャフリーヤ派沙溝道堂の活動は清朝によって厳しく禁止された。

民国時代の1922-23年には、ジャフリーヤ派の活動が国民政府に許されるにつれて、洪楽府道堂を再建することができた。当時、十数の庭、それぞれの庭の中には道堂や拱北、教祖の住宅、庭園、信者の寄宿舍、水房、食堂、馬囲い、「宰犠房」（羊や牛を殺す場）などが設けられていた。道堂は三合院式の建築群からなり、礼拝堂は三合院の正面に設けられ、その右側の庭には果物を植えた庭園を設け、其の中に回廊式のあずまやもあった。建築の飾りのほとんどは手工によって彫刻されたが、スーフイズム・ジャフリーヤ派が簡素さを重視するため、すべて彫刻物は華やかに染められなかった。

沙溝門宦の第八代ムルシド馬震武（1895-1961年）は中国スーフイズム・ジャフリーヤ派の創始者初代のムルシド馬明心の後裔である。中華民国政府蒙蔵委員会委員、甘肅省政府委員・顧問を勤めたことがある。建国後、西北軍政委員会民族事務委員会委員、西海固回族自治区の州長、寧夏回族自治区準備委員会委員、中国イスラーム協会第一回、第二回委員会副主任を務めた。在任期間中ではジャフリーヤ派沙溝宗派の教祖をも務めた。

1950年代初期では、西北地域における土地改革に対して、ジャフリーヤ派の大小の動乱が何回もあったことで、1958年、寧夏回族自治区の成立を準備するに伴い、中国全国イスラーム協会では「銀川回民座談会」^[注7]を開き、馬震武がジャフリーヤ派の指導者として批判の声を浴びた。馬震武が亡くなった後、その拱北はここに設けられていた。文革期間中では、馬震武の拱北を始め洪楽府道堂は何もかも崩壊された。馬震武の遺体は掘り出され、ばらばらに棄てられたが、信者にひそかに保存されていた。

その後、かつて洪楽府道堂を設けていた場所が次第に道路や河川に改造されていた。1978年には政府がこの地で建設された道路用地の一部を洪楽府道堂に返還したが、かつての用地のすべてを返還することはなかった。1989年に洪楽府道堂を再建し始め、信者に隠されていた馬震武の遺体を集めて新たな拱北を作った【写真24】。

現在、洪楽府道堂は沙溝派の宗教活動を行う中心的な場所となり、尔麦里を開催する際、沙溝派の信者はここに集まってくる。道堂はかつての場所で再建できたとはいえ、



【写真24】 洪楽府道堂に祭られている
馬震武の拱北・2004年3月



【写真25】 道路の真ん中にある洪楽府
道堂の礼拝堂・2004年3月

かつての場所の一部が道路に建設されていたため、道堂の礼拝堂はその道路の一部を横に切るように建設されている【写真25】。

馬震武が亡くなった後、彼の息子馬孫烈氏がムルシドとなった。馬孫烈氏は甘肅省西海固自治州副州長、寧夏回族自治区交通局副局长、自治区民族事務員会副主任、自治区政治協商会議副主席、中国人民協商會議第七、八回委員を歴任したが、1993年

の「寧夏械闘事件」との関わりがあったことで、地方裁判所より監禁され十四、五年間の政治権利を剥奪すると判決が下されていた。現在、病気のため保釈中である。

現在、洪楽府道堂が建っている道路を利用する車がここを通るとき、道堂の前を右側（東側）へ回りその横にある脇道にそれてから、はじめて先の道路を続けて利用することができる。洪楽府道堂のすべての所有地の返還をめぐり、道堂と地方政府間の交渉は表面に浮上せず、阿匄も我々に何も説明しなかった。建国以降におけるこの道堂のムルシドのたどった道筋からすれば、道堂はかつての領有地を取り戻すことは不可能に近いと推測される【写真26】。

この宗派の伝承のルートは馬明心→穆憲章→馬達天→馬以德→馬化龍→馬進成→馬元章→馬震武→馬孫烈とされている。



【写真26】 洪楽府道堂阿匄が読むアラビア・
ペルシア語の宗教書籍・2004年3月

注釈

1) 本研究では、回民社会に関する現地調査による検証として計画されていた。しかしながら、本研究を行う分担者のいずれも大学の教学上の事情があったため、現地研究調査は春・夏休みと教学期間の間隙を利用し断続的に進められることしかできなかった。また、現地で行われた調査活動では、中国全国イスラーム教協会、寧夏回族自治区社会科学院回族研究所・新疆ウイグル自治区民族事務委員会中国少数民族五種叢書編集委員会や新疆大学、新疆師範大学などの機関からの多大の協力を頂いた。本研究における具体的な調査活動は下記の表に示されている。

【現地調査活動の日程】

日程	調査先概要
3月18日(木)	午後：寧夏回族自治区社会科学院訪問・座談会・文献資料収集
3月19日(金)	午前：永寧県楊和郷納家戸村「納家戸清真大寺」訪問 納家戸村回族家庭を訪問・「尔麦里」見学 昼：呉忠市「呉忠清真寺」訪問 午後：同心県「同心清真大寺」訪問 夕方：同心県下流水郷洪崗子村「洪崗子清真寺」訪問・同清真寺現任教祖訪問
3月20日(土)	午前：呉忠市利通区板橋郷に設けている「呉忠板橋道堂」を訪問 昼：青銅峡市峡口鎮仁橋村に設けている「沙溝道堂」を訪問 午後：銀川市回族共同墓地見学 夜：寧夏社会科学院座談会・意見交換
3月25日(木)	北京全国イスラーム協会訪問・資料収集
3月26日(金)	北京朝陽区下坡清真寺訪問・金曜日集合礼見学・資料収集
3月27日(土)	北京回族共同墓地見学・訪問
6月21日(日)	午前：新疆大学西北研究所 午後：新疆ウイグル自治区民族事務委員会訪問・資料収集
6月22日(月)	午後：ウルムチ市内二道橋国際バザールウイグル町見学 夜：五一街見学
6月23日(火)	昼：吐魯番市民族事務委員会宗教局訪問 午後：吐魯番市政治協商委員回族家庭訪問 「東大寺」(新疆回族周門清真寺) 訪問 吐魯番市ムスリム(回族・ウイグル族) 共同墓地 ウイグル族清真寺見学 夜：ウルムチ市回民風味特色餐庁見学・インタビュー
6月24日(水)	午前：新疆師範大学社会文化人類学研究所訪問・座談会
6月25日(木)	北京大学国際交流学院訪問・資料収集・国際シンポジウム開催問い合わせ
9月20日(月)	寧夏回族自治区社会科学院学院設立25周年記念シンポジウム出席
9月21日(火)	当前回族学・伊斯蘭教研究現状研究討論会参加・報告(寧夏社会科学院主催)
9月22日(水)	午前：西夏王陵博物館見学・資料収集 午後：銀川市内南関清真大寺・寧夏博物館見学・資料収集
9月23日(木)	午後：海原県韭菜坪コンバイ訪問・見学 夕方：西吉県沙溝清真寺・コンバイ見学 夜：沙溝回族村民家庭訪問
9月24日(金)	午前：西吉北大寺(馬崇礼阿訇) 食事・見学・訪問 午後：同心清真中寺見学・金曜日集合礼見学 楊万宝阿訇訪問 同心県アラビア語学校見学 夜：銀川戻り、寧夏社会科学院同人座談会にて意見交換
10月24日(月)	北京大学シンポジウム参加・鈴木司会・報告
10月25日(火)	北京大学シンポジウム参加・樋口・高報告

10月26日(水)	午前：北京牛街礼拜寺訪問 全国伊斯蘭協会訪問・中国イスラーム経学院見学 午後：牛街ムスリムスーパーマーケット見学・北京回族墓地見学
-----------	---

- 2) ここで言った「総教長」は、1940年に成立された「新疆回族文化促進会總會」に選出された委員長であった新疆吐魯番市にある「東大寺」（新疆回族周門・紀門の清真寺）の紀門第四代イマム紀元章のこと、および1945年紀元章が歿後、その後任として選出された「馬門」の馬良駿のことである。馬良駿（1870-1957年）は著名な回族宗教学者。甘肅省に生まれ、1913年新疆で布教し始め、後新疆で馬門を形成した。1940年、盛世才の宗教弾圧で「陰謀暴乱」（暴動を企む）という罪名を着せられ、「東大寺」の周門の教長周振東と同時に逮捕し入獄され、入獄中で著名な『考証回族歴史』や訳書『清真五聯詩』を著作した。1944年に解放された。その後、ウルムチ市にある23坊の清真寺の選挙によって、1945年より1949年までの間、新疆回族総教長を務めた。1950年代以降、新疆人民政府高等顧問や西北民族事務委員会委員、新疆自治区政治協商常務委員などを務め、数多くの著書や訳書が残されている。
- 3) 馬明心（1718-1781年）甘肅生まれ。中国スーフイズム・ジャフリーヤ派の創出者；乾隆四十九年西北ムスリム蜂起の指導者；蘭州で殉難。彼の夫人である「張夫人」について、ここでは『回教から見た中国』（後掲参考書参照）の関連記載を引用しておく。
- 「馬明心には二人の妻がいた。馬明心が捕えられたときに、彼のサラール人の妻は自害を遂げたが、もう一人の妻の張夫人は娘たちとともに新疆の伊犁へ流れた。官軍に連れていかれた女たちの新疆への道が、どれほど悲惨であったか、想像に難くないが、現在ジャフリーヤ派は彼女たちの苦しみを口にしないようにしている。とにかく、いわゆるシルクロードと呼ばれる長い道で、馬明心の二人の娘たち（一説には三人）は、侮辱に耐え切れず途中で死んだ…。張夫人だけは我慢して伊犁にたどりついた。彼女に従うことを希望したジャフリーヤの信者たちはかなりいたが、彼女らも伊犁に住むようになった。ところが、翌年正月前の大晦日の夜、彼女は豚肉を料理させた官吏の家族十数人を殺した後、自首するため役場へ向かった。復讐のためだと自白した彼女に、役人も感嘆したと伝えられる。処刑のとき、彼女は現場で彼女を見ていた一人のアホンを呼んだ。「何を待っているのか」。アホンは涙を流しながら、彼女の血を自分の顔に塗って、イスラーム教徒としての葬式で行われねばならぬ最後の儀礼、すなわち後悔の儀礼を彼女のために行って祈りを捧げた。』『回教から見た中国』p. 68-69に拠る。
- 4) 後掲参考書『回族人物志』（上）「元代」巻二・巻三；『寧夏回族歴史与文化』；『一個回族村的当代変遷』等に拠る。
- 5) 清代の同治、光緒年間の2度の反乱を中心として西北および雲南の各地で頻発した回民の反乱。「起義」という言葉は、これを清朝の統治階級に対する革命運動として評価するものである。反乱の原因は回民、漢民間の対立、地方官の不公平な処理や不正により高められる回民の反漢、反官意識であったとされる。
- 6) 1936年10月20日に「同心清真大寺」で約300あまりの回族が集まり、『豫海県回民自治政府条例』『減租減息条例』『土地条例』を通過し、「豫海県回民自治政府」を成立した。すべての政府の責任者が回族の出身者に選出された。中国共産党の印（徽章）とアラビア文字・漢文字を彫刻した政府の印鑑を作った。管轄人口が3万人あまりで、自治政府は主に紅軍の抗日の主張を宣伝し、地主の土地を分配し、紅軍の供給を保障することを中心に行った。同年の12月13日に紅軍が同心県から離れた後、自治政府が破壊を受け、地下活動に移した。
- 7) 1958年寧夏回族自治区を設立する前、寧夏で土地改革や農業集団運動を遂行した過程において、民族や宗教問題に対する理解度合いが低かった政府工作隊が回族の間で紛争を起こした。その結果として、当時のジャフリーヤ教主である固原回族自治州の州長、中国全国イスラーム協会副主席でもある馬震武を闘争の対象とした。1958年全国イスラーム協会が雲南、吉林、河北など八の省の回民代表400余りが集まり、銀川で回民座談会を開き、馬震武は「反革命の動乱を企画する」「国家政策を破壊する」などの罪名を着せられ、厳しく批判された。よって、馬震武のすべての権限が剥奪されに到った。この座談会の悪影響は全国に及んでいた。これについて、回族出身の歴史学者・作家である張承志が「会議は、終始中国イスラーム協会の名義で行われたが、じつは宗教界の座談会ではなく、厳しい政治闘争であった。共産党の新しい寧夏の指導者は、馬震武批判を通じて自分の官職地位をうまく固めたが、中国

イスラム協会もジャフリーヤ派を売り、宗教をいっそう官營の道に導いたのである。」というように語っている。後掲『回教から見た中国 民族・宗教・国家』p. 159による。

(日本語参考図書・出版順に拠る)

- 小林元著 1940年『回回』東京博文館。
 範長江著・松枝茂夫訳 1983年『中国の西北角』筑摩書房。
 張承志著 1993年『回教から見た中国 民族・宗教・国家』中公新書。
 張承志著・梅村坦編訳 1993年『殉教の中国イスラーム』亜紀書房。
 山内昌之編 1996年『世界の民族・宗教地図』日本経済新聞社。
 編集代表・片倉もところ 2002年『イスラーム世界 事典』明石書房。
 華立著 2003年「清代甘肅・陝西回民の新疆進出——乾隆期の事例を中心に——」塚田誠之編『民族の移動と文化の動態——中国の周辺地域の歴史と現在』所収 風響社。

(中国語参考図書・出版順に拠る)

- 新疆昌吉回族自治州政治協商委員会文歴委員会編・印刷 1988年『昌吉回族和伊斯蘭教』。
 韓斌・馬素坤・王平編著 1995年『新疆回族史綱要』(内部発行版)。
 中国人民政治協商會議吐魯番市委員会文史資料委員会編 1995年『吐魯番文史』(第四輯：回族特輯・内部発行)。
 金宜久主編『伊斯蘭教辭典』1997年 上海辭書出版社。
 任繼愈主編『宗教大辭典』1998年 上海辭書出版社。
 寧夏百科全書編纂委員會編 1998年『寧夏百科全書』寧夏人民出版社。
 宋志斌主編 1998年『一個回族村的当代變遷』寧夏人民出版社。
 丁克家ほか著 1998年『兩世吉慶——中国伊斯蘭虎非耶洪水——』寧夏社会科学院。
 昌吉回族自治州州民族宗教事務委員會編印刷 1998年『昌吉民族和宗教』。
 李興華ほか合著 1998年『中国伊斯蘭教史』中国社会科学出版社。
 王玉貴著 1999年『西北馬家軍』江蘇古籍出版社。
 本書編者組編著 2000年『中国新疆地区伊斯蘭教史』新疆人民出版社。
 馬平・馬金寶・丁克家編著 2000年『寧夏清真寺』寧夏人民出版社。
 白寿彝主編 2000年『回族人物志』上・下 寧夏人民出版社。
 续西发著 2001年『新疆世居民族概覽』民族出版社。
 許憲隆著 2001年『諸馬軍閥集团与西北穆斯林社会』寧夏人民出版社。
 何克檢ほか編著 2003年『回族穆斯林常用語手冊』寧夏人民出版社。
 文斐編 2004年『我所知道的馬鴻遠家族』中国文史出版社。
 劉偉主編 2004年『寧夏回族歷史与文化』寧夏人民出版社。
 中華人民共和國民政部編『中華人民共和國行政区划簡冊』2004年版 中国地圖出版社。